



朝には紅顔ありて

理事長 寺西 伊久夫

春は名のみの風の寒さや♪(早春賦)

待ちわびた春の到来。一月末、石垣島から平年より一週間遅れで始まった田植えの知らせが届きました。名古屋ではお参り先のお仏壇に菜の花の香りが。そこに持参した災害救援金の募金箱にお寄せいただく心温かなご家族がいらっしやいました。

年明け元旦に、石川県能登半島沖を震源とする大地震(震度7)が発生。翌二日は、羽田空港で日航機と海保機が衝突そして炎上。さらに三日は、北九州市の飲食店密集地で大規模な火災が発生。他人事とは思えない惨事に背筋が寒くなりました。今年は何という波乱の幕開けなのでしょう。

人生はやり直しはできないが見直すことはできる、と言います。正月早々にまさか!と誰もが思い走った惨事。辛く悲しい思いを繰り返さないために、人智を尽くす努力が私たちに求められていると思います。

十三年前に発生した東日本大震災。その日の朝、元氣よく登園・登校した子どもたち。職場に出勤したお父さん、お母さん。笑顔で見送ったおじいちゃん、おばあちゃん。十四時四十六分に起きた大地震、続く大津波で多くの方々の命が瞬時に奪われてしまいました。明日の命、今日の命さえも、その保証はどこにも存在しないことに気づかされます。

朝には紅顔ありて

夕には白骨となれる身なり「御文」より

